

2025年11月4日

# 2026年3月期 第2四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

---

 ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

# ハイライト

## 2026年3月期 第2四半期連結決算

### 売上高

✓ **352億円、前同比8.9%増加**

国内事業が堅調に推移したことに加え、海外事業の寄与により過去最高を更新

### 売上原価

✓ **182億円、売上原価率 前同比0.9ポイント増加**

国内事業では横ばいとなったものの、海外連結子会社の取り込みにより増加

### 販売費及び 一般管理費

✓ **143億円、売上高販管費率 前同比1.9ポイント増加**

国内医療用医薬品事業においては、研究開発の進展に伴う費用の増加、販促費の増加等により、販管費率が増加

### 営業利益

✓ **26億円、前同比20.8%減少**

売上総利益の増加を上回る研究開発費等の増加により減益

## 2026年3月期 通期連結業績予想修正（11月4日公表）

### 業績予想

✓ **売上高 710億円、前同比10.7%増加**

✓ **営業利益 60億円、前同比12.5%増加**

# 損益計算書（連結）

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	32,371	35,253	2,881	8.9%
営業利益	3,345	2,649	△ 696	△ 20.8%
経常利益	3,312	2,660	△ 651	△ 19.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,560	2,226	△ 333	△ 13.0%

## 増減要因

- ✓ 物価上昇の継続、米国の通商政策の動向、ウクライナや中東情勢の長期化等、依然として先行きは不透明な状況の中、当社グループでは、医療用医薬品事業や動物用医薬品事業が堅調に推移した事に加えて、海外事業の売上寄与もあり、増収となりました。
- ✓ 利益面においては、研究開発費の増加等により、営業利益は前同比20.8%減、経常利益は前同比19.7%減、親会社株主に帰属する中間純利益については前同比13.0%減といずれも減益となりました。

# 事業別売上高（連結）

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	28,617	29,255	83.0%	637	2.2%
アニマルヘルス事業	3,640	3,765	10.7%	124	3.4%
海外事業	—	2,133	6.0%	2,133	—
その他事業	113	99	0.3%	△ 13	△ 11.8%
合計	32,371	35,253	100.0%	2,881	8.9%

※ Hataphar社を連結子会社化したことに伴い、「海外事業」を新たに追加しております

## 増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、薬価改定の影響を受けつつも堅調に推移しました。産婦人科領域製品の「レルミナ」「ドロエチ」が前年に引き続き増加し、内科領域製品の「チラーゼン」「リフキシマ」は薬価のプラス改定の影響もあり大きく伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、動物用医薬品の増加を主因に、売上高は前同比3.4%増加しました。

# 主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初計画	
内科	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーゼン	4,052	4,306	6.3%	8,628	6.3%	8,628	薬価アップによる前年度の仮需の影響をほぼ消化し、数量も増加
	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	4,302	4,026	△ 6.4%	7,800	△ 8.7%	7,112	薬価はダウンしたが数量ベースはほぼ維持
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	3,227	3,880	20.2%	7,517	16.4%	7,458	薬価アップに加え数量も増加
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	792	825	4.2%	1,629	4.0%	1,629	薬価アップによる前年度の仮需の影響をほぼ消化し、数量も維持
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	400	404	0.8%	790	△ 0.9%	756	前年度並みで推移
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	5,413	5,692	5.2%	10,949	4.0%	11,241	子宮内膜症でのシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	3,589	4,109	14.5%	8,275	10.3%	6,064	薬価はダウンしたが、想定以上の数量増
	AG	月経困難症治療剤 フリウェル	1,550	1,509	△ 2.6%	2,946	△ 6.5%	2,824	薬価はダウンしたが、数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルデウム	1,143	1,095	△ 4.3%	2,199	△ 6.4%	2,228	他社競合品による影響
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	350	314	△ 10.2%	654	△ 3.2%	669	処方提案を継続するも、競合品の影響
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	376	334	△ 11.2%	612	△ 15.3%	580	想定よりも緩やかな減少
	先発品	経口避妊剤 スリンダ	—	119	—	539	—	—	6月30日発売開始
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	2,037	1,908	△ 6.3%	3,814	△ 4.7%	3,814	先発品の影響により数量減少

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

# 主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	2,275	2,249	△ 1.1%	4,488	△ 2.1%
動物用医薬品 (畜水産 + CA※)	1,339	1,371	2.4%	2,835	9.0%

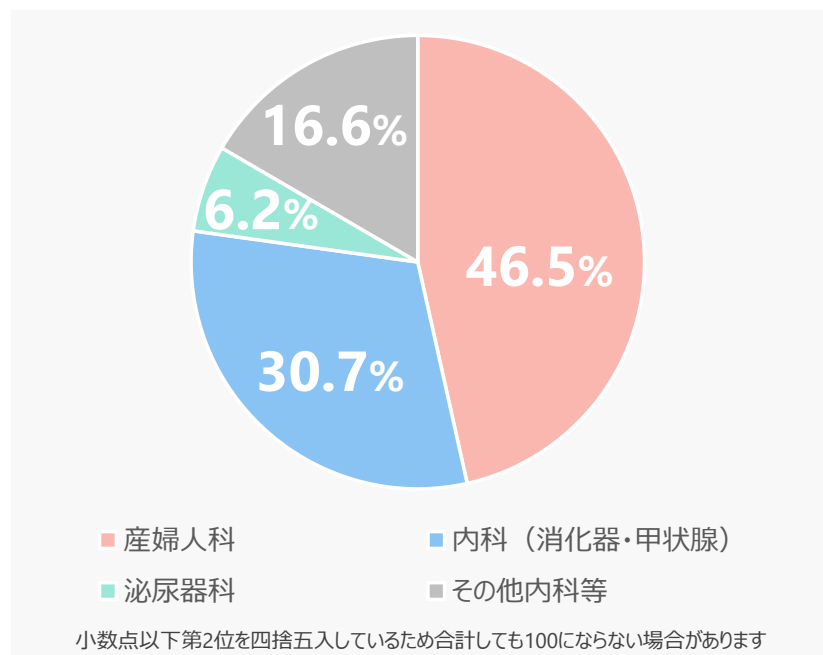
## 増減要因

- ✓ 2026年3月期第2四半期は、動物用医薬品が伸長したことで増加しました。
- ✓ 2026年3月期通期においても、動物用医薬品の伸長を見込んでいます。

※ コンパニオンアニマル

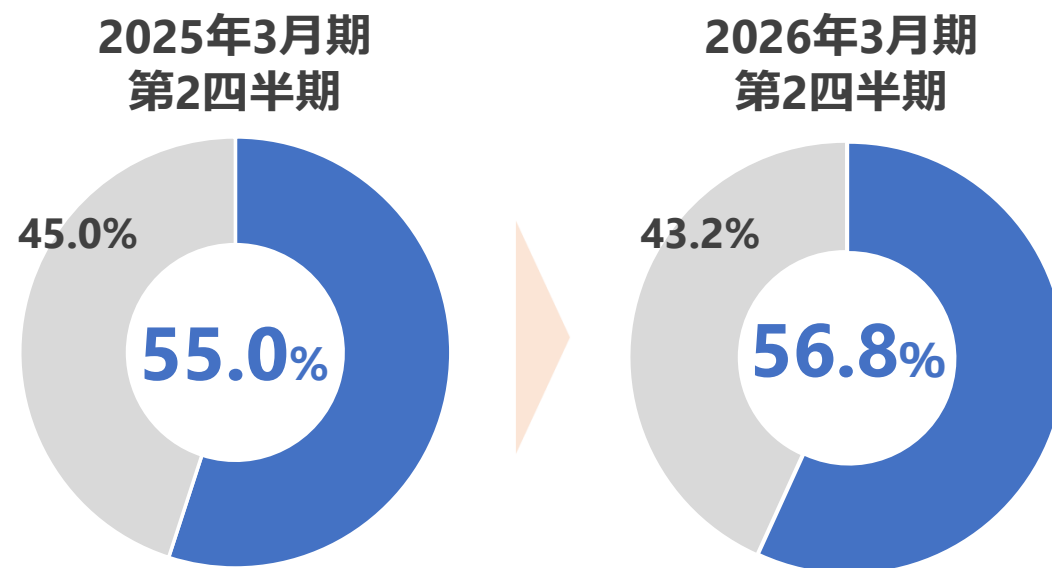
# 領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

## 領域別売上高比率 (2026年3月期 第2四半期)



## 先発品・GE売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

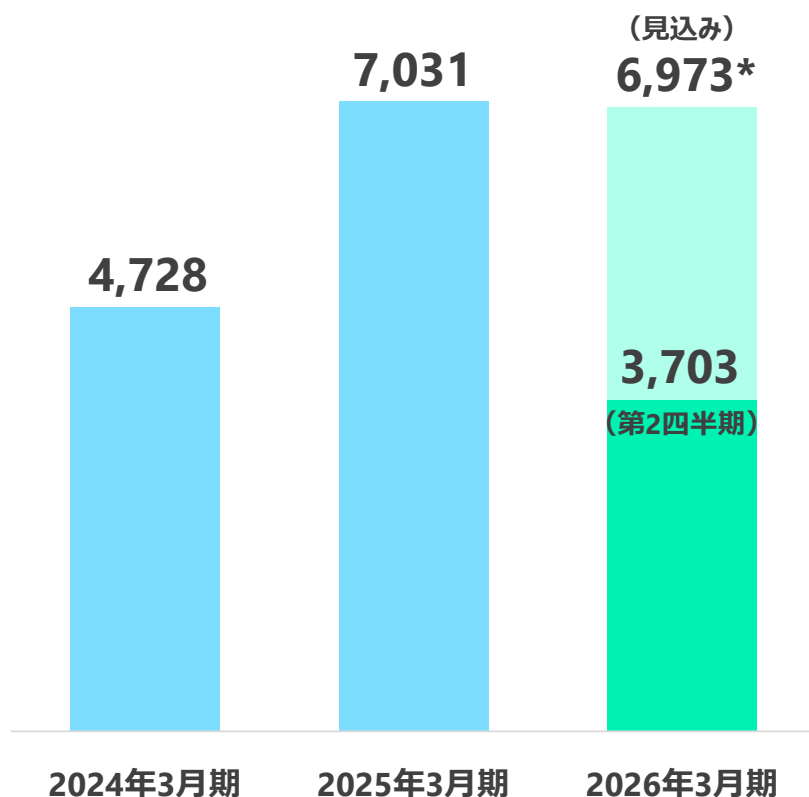


レルミナ、リフキシマ、チラーチン等の伸長により、先発品比率は1.8ポイント増加

# 研究開発の状況

## 研究開発費推移

(百万円)



\* 期初公表値 (5,402) より修正

## 2025年11月4日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	PhⅢ実施中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	PhⅢ実施中
LPRI-CF113 (ドロスピレノン) 月経困難症	Ph I / II 実施中
AKP-SMD106 (治療用アプリ) 月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)	特定臨床研究 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)	開発準備中
MCN-009 (治療用アプリ) 過敏性腸症候群 (IBS)	検証的治験※ <sup>1</sup> 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II 実施中
AKP-021 (mPGES-1阻害剤)	Ph I 実施中
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中

※<sup>1</sup> 医療用医薬品PhaseⅢ相当

※ TRM-270は、PhaseⅢ終了後の協議により、共同事業化契約を終了しました

## 2026年3月期 通期連結業績予想修正（11月4日公表）

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	64,139	75,000	71,000	6,860	10.7%
営業利益	5,331	6,800	6,000	668	12.5%
経常利益	5,107	6,800	6,000	892	17.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,101	5,200	5,000	△ 101	△ 2.0%

### 修正要因

- ✓ 売上高は、第1四半期において、Hataphar社の輸入品販売取引は総額で売上計上していたが、改めて検討した結果、当該取引を純額で売上を計上する方法に変更したため、2026年3月期予想を下方修正しました。
- ✓ 利益面は、将来の成長に向けたパイプラインの拡充および創薬力強化を目的とした研究開発投資の積極的な推進により、研究開発費等が増加する見込みであり、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも下方修正しました。

# Hataphar社の売上計上方法の変更について

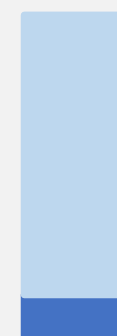
当社ベトナム子会社 Ha Tay Pharmaceutical Joint Stock Company（Hataphar社）の売上の内、ベトナム国外から仕入れた輸入品をベトナム国内で販売する取引について、これまで総額で売上高を計上していたが、当該取引について改めて検討を行った結果、Hataphar社は顧客に移転する財またはサービスを支配しておらず、これらを手配するサービスのみを提供している「代理人」に該当する取引であると判断

ベトナム国内輸入販売について、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で売上を計上する方法に変更

売上高および売上原価はそれぞれ減少するが、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益等への影響はない

## 輸入販売の変更イメージ

変更前



売上

■ 手数料 ■ 仕入額

変更後



顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除

売上